

平成20年 1月1日
(2008)
第80号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461-1170

保谷公民館
柳沢1-15-1
TEL 464-8211

芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461-9825

住吉公民館
住吉町6-1-25
TEL 421-1125

谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421-3855

ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424-3011

民営化から3か月 西東京市の郵便局員たち

郵政事業が民営化され、「日本郵政グループ」として新たな業務がスタートしています。私たちになじみの深い郵便窓口業務は「郵便局株式会社」が業務展開しています。西東京市の郵便局で働く人たちは、日々どんな思いで仕事をしているのでしょうか。

◆若き郵便局員たち

研修と情報交換を目的に、毎月定期的に公民館で行われている「木曜会」。東伏見、中町、下保谷、富士町等の郵便局の社員有志が集います。郵便・貯金・保険等のすべての窓口を担当している皆さんです。今回は、郵便局に入ってから1、2年め中心の若手社員にお話を聞きました。

◆毎日の仕事の中で

仕事をやる上で心がけていることは
「お客さまをなるべくお待ちせしないようにしています」
「自分の能力を高め、お客さまに対して的確な受け答えができるようにしています」
働いていると嬉しいこと、つらいことも多々あります。他局にもいたことがある社員は、
「こちらのほうが地元なじみのお客さまが多く、お互いに顔と名前を覚えてしまつてくると新鮮です」。

「実家が熊本で、ここでは金融機関が郵便局しかありませんでした。名前だけで郵便物が届いてしまつたところ、中学のとき、郵便局の職場体験をして、お客さまと直接お話ができる職場はいいなと思いました」
「前から地域に密着した金融機関に勤めたかった」
「飲食業のアルバイトをしていて接客の指導を受け、郵便局でそれを生かしたいと思いました」。

「うちの小さな郵便局なので、その郵便局を好きになって立ち寄っていただけるお客さまがいることはとても嬉しい」
「お客さまが自分のファンになつてくれて、あなたにやってみようって本当によかったと言われたときは嬉しい。自分の言葉がうまく伝わらなかつたときはつらい」。

◆郵便仕事っていつから

それぞれ、今の課題をしっかりと見据えています。
「この仕事に就いて一年半。これまでの事業にライバルはいま

ませんでした。民営化によってライバル会社もでき、生き残っていくのは厳しいことだけど、自分に厳しく、追いつき、追い越せる気持ちでがんばっていきたいです」。

仕事に生かせる資格を取りたいと考えている人もいます。
「民営化して失敗だったと決して言われないように、従来の地域性や昔の郵便局の親しみやすさを大切にしながら、会社としての幅広いサービスを展開していきたい」

「市民のニーズを把握し、皆々

んとも考えていきたいです」。

市民まつりの場にも積極的に出店し、地域の行事にも参加しています。
「趣味や旅行の話をしていければお客さまもいらつしゃいます。仕事に追われてなかなかお話できないのが現実ですが、そうしたふれあいは嬉しいものです」
市民にとってはもちろん、そこで働く人たちにとっても魅力的な郵便局であり続けてほしいものです。



郵便局の窓口でお待ちしています

サークル訪問 ～保谷かつぽれ道場～

男浴衣にたすき掛け、頭には豆しほりの粹ないでたちで踊る「かつぽれ」。

元々は大阪で生まれ、田植えの時に豊作を願って踊つたのが始まりと言われています。江戸時代から庶民の間で親しまれ、お祭りやあめでたい席で披露されるようになりました。

「保谷かつぽれ道場」はそんな「江戸芸かつぽれ」に魅せられた人たちのサークルです。

平成元年に発足し現在会員は10人、保谷公民館で月2回活動しています。

取材の日「かつぽれ」と「深川」の2曲を練習中でした。少し緊張した面持ちの会員の皆さん。

「ちよいなっ こらさっ」
シャキシャキとした元気でキラの良い所作の中にも凛とした雰囲気漂います。

かつぽれは一見、軽快に見られますが、実は「和製エロビクス」と称される程ハードな踊りです。片足立ちも多くバランス感覚の良さが要求されます。

「笑顔で、足をもっと上げて」先生の声が響きます。

当日練習に参加した唯一の男性の福田さんは85歳。軽やかなその動きは年齢を全く感じさせません。

65歳の時に足を複雑骨折し、

リハビリを兼ねてかつぽれを始め、以来その魅力にはまっています。今では1キロのパレードも難なくこなします。

「若さと健康の秘訣は、やはりかつぽれですね」
「ここに来て練習をするとシャキツとするんです」と3年目の平岡さん。

地域との関わりも大切になっています。地元のお祭りやパレードに参加する他、老人ホームやデイケアサークルへのボランティア出演は年間40～50回にもなります。

かつぽれの唄は高齢の人たちにも馴染みが深く、心に響きます。

自分では思うように体が動かせない101歳のお年寄りが動かせる手だけで拍子を取る姿に千葉さんは胸を打たれました。

「喜んでくれたことで、逆にこちらが元気をもらえます」と語ります。

見ても踊っても元気になれる「かつぽれ」。皆さんも一度江戸の粋に触れてみてはいかがでしょう？



ロビーコンサートで、観客も一緒に…